

令和3年度 本年度の学校評価（最終報告）

本年度の重点目標				
① 授業規律により学習習慣を定着させ、授業改善やタブレット活用により学習意欲の向上を図る ② SNSの利用に関するモラルの向上を図る ③ 学校行事・部活動において生徒を主体的に参加させ成長を促す ④ 「進路指導だより」等を利用した的確な進路情報を提供し、家庭と学校の情報共有を図る ⑤ あらゆる機会を捉えキャリア教育を推進させる ⑥ 学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、「いじめを絶対になくす」意識を職員全体で共有する ⑦ 衛生委員会を活用し、勤務時間の適正な管理と教職員の健康障害防止に努める				
項目(担当)	重点目標	具体的方策	成果と課題	次年度に向けての改善策
総務部	P T A活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染状況の中で、活動を制限したり、変更したりしてP T A行事を実施する。 役員会で専門分野別に分かれ、話し合いを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭では学年目標を入れたタオルを各学年に贈り、体育祭で利用してもらった。P T A社会見学は体験研修などを考え、いろいろと企画したがコロナ感染の影響で密になれず、中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも保護者の行事参加ができるように企画を行う。(体育祭の見学・校内ボランティア活動等) 代替案をP T A専門部会で考えて頂けるように依頼をする。また、そのために職員間で連携をとって専門部会を充実させる。
	学校評価アンケートの変更	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌から次年度に生かせるためのアンケート項目の提案を受け、作成する。 タブレットを利用して、アンケートを行い、その結果処理をスムーズに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・学年等から次年度に生かせるようなアンケート項目を作成できた。生徒・職員はタブレットのチームズを利用し、結果処理をスムーズに行うことができた。保護者はグループフォームを利用して回答し、処理することができた。回答して頂いた人数が少なかったのが次年度の課題として残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度のアンケート結果を生かし、分掌でどのように改善されたかを検証する。 岡商メールを利用して多くの保護者に回答して頂くように働きかける。
教務部	授業改善と授業規律の定着	<ul style="list-style-type: none"> 岡商ステップアップアンケートを継続して実施する(7月・12月)。次学期における授業と授業規律の見直しへ提案する。 成績不振者について、定期的に学習状況を追跡調査し、教科、学年と協力し意識改善を図る。 多欠課者指導報告票を活用し、多欠課者の早期発見・早期助言を行い、履修保留者0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ステップアップアンケートでは、課題提出の意識付けができていたことが、結果として表れている。長期休業後の課題状況報告書も必要なくなるような状況である。 成績不振者に関しては、定期考査後の指導を計画通り行った。再考査不合格者に対しても、定期考査前に面談を行い、不振を改善できるように勉強へ取り組む姿勢の改善を図った。 また、全ての生徒が学習できる環境を作れるように、定期考査前には考査範囲表を作成した。 多欠課報告票を活用しながら、生徒への指導面談を計画通り行った。出席簿を確認していたおかげで、早期の状況把握ができたが履修保留者ゼロには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の取り組んできた指導方法を継続しながら、今年度から配備されている一人1台タブレットの活用の在り方を考えていきたい。また、新学習指導要領で示された3つの評価の評価方法を考えながら、授業改善と授業規律の定着に努めていきたい。
	図書	<ul style="list-style-type: none"> 図書館を活性化するためのビブリオバトル 	<ul style="list-style-type: none"> 岡崎商業としてビブリオバトルに取り組んで5年目を迎えた。校外にも目を向けさらに生徒のレベルアップを図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内ビブリオバトルは図書委員を中心に行われたが、教員・生徒双方に準備不足ということもあり、しっかりと本を読み込んでの参加ではない生徒もいて、昨年度よりも低調であった。 一方で、国語の授業でも取り入れるなど図書委員以外にも広がりつつある。 来年度に向けて、やり方等見直す必要がある。
生徒部	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻、校門遅刻の状況は昨年度より減少したが、例年に比べ多かった。教室への注意喚起が足りなかった。また、交通事故については同様のケースの事故が半数以上を占めている。交通事故の発生状況の情報提供が迅速に行われていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度目標を設定する際、今年度の統計データを示し、各学年の出欠状況の改善目標を明確に掲げる。 遅刻、校門遅刻指導を充実し、教師および生徒の意識向上を図る。具体的な方策として、遅刻者との対話を充実させ、遅刻原因を明確化し、改善計画をともに考える等、指導内容を見直した的確な指導を目指す。
	いじめ防止対策として情報機器利用のマナーの向上とSNSに関するモラルの向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生活委員会からの情報発信を定期的に行う。 具体的なトラブルの事例を示して資料とし、授業等で生徒に考えさせる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPCを日常的に利用できるようになり、放課中でもインターネット利用(学習用)が増えた。これにより、スマホとタブレットの住み分けができず、スマホの使用に対する指導件数が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSやIT機器(スマホを含む)利用状況調査を実施し、生徒の現状を把握するとともに、生徒自身にも自分の利用状況が客観的に伝わるように調査結果をフィードバックする。これに合わせて、SNSのトラブル事例等を示す。また、生徒の意識の変化についても追跡する。
	生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に参加することができる学校行事の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を活性化させ、生徒の意見を取り入れた行事運営をめざす。 コロナ禍での行事運営を考え、有意義な学校行事の構築をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会に役割を割り振ることができた。また、議会などを活用したり、生徒会執行部と校長先生との面談を通したりして、生徒の意見を行事に反映させることができた。 感染症対策を行ったうえで行事を計画・運営し、岡商サマーフェスティバルという新しい行事を開催できた。
進路指導	個に応じたきめ細かな進路指導と3年生進路決定後の事後指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に実施するアンケートや調査の記入内容を参考に、個別面談の充実を図る。 内定後のLTを活用し、キャリアプランニングを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査では自由記述欄に不安や疑問を訴える生徒も多く、都度面談を実施した。しかしながら、進路相談及び面談、情報収集のために進路指導室や進学資料室を活用したことがあるかの質問に対し、全体では25%(1年5%、2年14%、3年59%)にとどまっている。媒体を活用した情報提供に加え、担任団と連携し、潜在的に悩みを抱えている生徒の進路相談の充実が今後も課題である。 キャリアプランニングについては、3学年が舵取り実施している。進路決定後のLT活用や自動車学校通学との兼ね合いが難しく、進路指導部単体としては実施できていないのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路部としては、不安や悩みが進路希望調査や進路相談メモなど文字として表面化しない限りは個別相談の機会を積極的に設けてこなかった。それが進路室の活用としてアンケート結果で明らかになっている。今後は、担任面談週間等を活用して、生徒から進路に関する話題が上がった段階で、速やかに個別面談を実施し、生徒、保護者、担任で情報共有を図ることができるよう流れを構築していきたい。そのためにも、「いつ時点のどのような相談内容、回答なのか」という記録をきちんと取り、段階的な悩みの理解及び把握に努めていきたいと考える。 キャリアプランニングについては、第3学年の意向をヒアリングしながら進めていきたいと考える。必要に応じてガイダンスを設けたり、外部講師を招聘したりするなどして、担任団と連絡を密にして、サポートできるような体制を整えていきたい。
	進路情報資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導室前の掲示板を活用し、適切な情報を適切に発信する。 進路相談メモ及び進路だよりを通して、担任、生徒、保護者、事業所との密な情報共有を図る。 過去資料に関してガイダンスを通じ、生徒に周知徹底を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりや校内掲示板、ガイダンス等あらゆる手段を活用し、タイムリーな情報発信に心掛けた。他教員からは進路部の情報提供は適切に行われているとのアンケート結果を大方得ている。一方、進路関係資料の家庭内共有については、「よくしている」「たまにしている」と全体の生徒57%、保護者72%が回答した。学年が上がるにつれて関心度は増加しているものの、3年生向けの情報発信として学年間の偏りが生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「何に関心をもってもらいたいのか」「何を知ってほしいのか」について、進路部目線での一方的な情報発信に傾斜しているのが現状である。なお、現在、各学年各クラスに依頼し、クラス進路委員を立てている。配布物の配布及び説明が中心の業務であるが、今後はそうした担当生徒から「どんなことに関心があるのか」「何を知りたいか」という点について協議する機会を設け、生徒目線での情報発信を検討している。また、生徒に配布したという事実を保護者に把握してもらう為、岡商メールを活用するなど情報の家庭内共有徹底に努めていきたい。
保健部	清掃活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ポリシャーマシンを活用して、より充実した清掃活動となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や廊下の特別清掃などにおいてポリシャーマシンを昨年以上に活用することができた。操作した生徒に対するアンケートによれば、楽しく操作でき、今後も導入すべきだという回答を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 左記のアンケートでは課題も浮かびあがった。女子生徒が多い故、操作が難しいとか危険だと感じる意見もあった。安全に効率よく作業を実施するためには、指導する教員の協力体制の確立が不可欠であり、今後の課題である。

	生徒の相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部との連携体制を確立する。 個別の教育支援計画・指導計画の作成手順・様式についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悩みの調査については指導部と情報共有することができた。 個別の教育支援計画・指導計画の作成についてはあまり進めることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導部が行ういじめアンケートについても情報共有できるように指導部に図ってきたい。 近隣の支援計画・指導計画の作成手順や様式を参考に作成を進め、教務部へ提案できるようにしたい。 	
	教職員の健康やメンタルヘルスの保持	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の多忙化の原因を在校時間調査やストレスチェックを基に分析し、ストレスの解消に向けて周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの結果において健康リスクは低い状態になってはいるものの、在校時間調査においては、月80時間を超える職員が数名いる状況がある。このことは今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で連携しながら働きやすい職場環境づくりに継続して取り組んでいきたい。また、ストレスを抱える職員に対するカウンセリング活動をより一層充実させていきたい。 	
学年会	1年生	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつに関してはある程度の成果を感じられるが、自発的な部分に関してはその重要性や意味についての理解を深める必要がある。 どの項目においても、多くの生徒は守ることができているが、失敗を繰り返したり、自ら改善しようとする意志を見せられない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> S T、集会、式典などにおける指導の徹底を図るとともに、その都度、重要性・必要性の啓発を行い続ける。 失敗を繰り返してしまう生徒への個別の対応を担任および学年で共有を図ることで、授業を含めた普段の学校生活において導く環境を構築したい。 	
	1年生	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢と家庭での学習習慣を育成し学習内容の定着を図る。 個々の目標設定を促し、学力向上や検定取得を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ姿勢と成果がなかなか伴わない生徒が多い。真面目に取り組もうという意欲は感じられるが、成果を出すために、勉強の仕方であったり、やる内容であったりと、改善する必要がある部分がある。 計画表の作成や、定期考査・検定資格に向けての目標設定などをその都度行ってきた。希望受験の検定に対しては、生徒の積極的な受験意欲には欠けていたと感じる。啓発も含めて、学年全体としての意思疎通を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振者のみならず、なかなか成果の挙がらない生徒に対する指導の充実を図りたい。学年のみならず、各クラスの教科担当者も含めたグループとして指導にあたる環境を構築したい。 目標設定は引き続き行っていく。そのうえで、その目標に対する日々の取り組みなどの計画や予定を立てさせ、実行させるような指導を行っていく。また、学習への意欲向上に向けて、資格取得面、進路面といった多方面からのアプローチを考えていきたい。
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合い、高め合う集団の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 学習、部活動、行事に真剣に取り組ませ、お互いに良い影響を与え合いながら成長していける環境をつくる。 それぞれの個性や立場を認め合い、他者や集団のことを考えて行動できるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各考査や行事ごとにタブレットやスマートフォンを用いてオンライン上に目標や結果を記録することで振り返りと今後の課題を意識させることができた。 行事等ではクラスために動くことのできるが、普段の生活の中で異なる考えや立場を認め合い気持ちの良い関係をつくるために必要な、対面でのコミュニケーションが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン上での記録は進学時に必要であるとして昨年度から始まったが、入試制度が急遽変更され、現在は進学時の書類や履歴書を書くときに利用する目的で記録を続けている。来年度以降も記録をオンラインで続ける必要があるかについては検討していく必要がある。 対面して自分の思いを言葉で思いを伝えたり、意見を述べたりすることが苦手な生徒が多く、ネット上などにそれらを書き込み人間関係のトラブルの元となっている。対面でのコミュニケーションの大切さや言葉の使い方などしっかりと伝えていきたい。
	2年生	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する意識の向上と目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について考えさせる機会を多く設定し、インターンシップや産業見学、オープンキャンパス等の進路行事参加等を通して進路意識を向上させる。 進路目標を設定させ、進路実現のために主体的に学ぶ姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスやインターンシップにコロナ禍の中多くの生徒が積極的に参加し、秋の進路調査では進路未定者の数が大幅に減少した。 検定を受ける生徒は多かったが、一方で直前になり慌てて学習し不合格となる生徒も多かった。進路実現に向けて長期での学習計画を立てさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期のオープンキャンパスはオンラインでしか実施されなかったところもあり、例年よりも実際に会場に足を運ぶ機会が減ったため、来年度も引き続きオープンキャンパスや体験授業等に参加を促したい。また看護志望者が多いため、学習面でのフォローを教科担当者と連携しながらしっかりと行う必要がある。
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な進路選択と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を強化し、本人及び保護者の意思を確認しながら個に応じた進路指導にあたる。 主体的に情報を収集させるとともに、進路指導部との連携を図り、進路先とのミスマッチの防止に努める。 コロナ禍での就職活動や入学試験になることを踏まえ、基礎学力のレベルアップ図り、資格取得及び面接対策を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部との連携強化を図り、担任間においても情報を共有しながら、クラス間での不公平なく進路指導及び選考が実施できた。中でも就職面談中のTeamsを用いた情報交換(チャット・リモート接続)は、大変有効であった。 就職希望者においては面接練習に重きが置かれることが多いが、早い段階からの筆記試験(学科・一般常識・SPI・適性検査等)に対する指導の必要性を感じた。 未履修科目により受験する生徒への早期対応と組織的な連携を図る必要性を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学者の受験校及び受験科目を早期に調査し、組織的な対応を行う。 M5、LTの有効活用を図る。 進路決定後の辞退もあり、応募及び受験前の再確認を徹底する。
	3年生	<ul style="list-style-type: none"> 社会人になるための基礎スキルの習得 	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出るための準備期間の年であることを認識させ、周りに配慮した言動をとることやマナーの向上を図る。 学校行事を通して集団生活のルールを遵守し、協調性を養う。 社会の動きや出来事に目を向けさせ、自ら考えて行動する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭や修学旅行では、制限のある中で、集団生活のルールを守り、協調性と最高学年であるという自覚を持って取り組むことができた。 高校生活集大成となる3学期において、コロナ感染拡大の影響もあり、学年末考査の欠席者が多く残念であったが、この1年は問題行動もなく、よく頑張った。 基礎学力や能力を身に付けるための組織的な取り組みは不十分ではあったが、この3年間を通して心身ともに成長できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得のみならず、基礎学力や一般常識を身に付けることが大切である。また、社会問題等に対する自分なりの意見を持つことの重要性を認識させるための取り組みや工夫が必要である。 学年末考査欠席者の取り扱いについて、規定の見直しが必要である。
商業科	1年全科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基本として学習を進め、問題集やプリントを活用し、問題演習、小テスト等を実施することにより、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基本として、基礎・基本的な知識の定着を図る授業に取り組むことができた。また、各科目においてタブレットを利用し、教員・生徒双方向通信による新たな授業形態を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットの有効活用をさらに進めていきたい。 新学習指導要領の実施に向けて各科目のねらいを留意し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を実施していきたい。
	国際ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力の伸長と国際感覚の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 外部との連携を通して、国際情勢に目を向けさせる。 ビジネスマナーを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業庁起業家教育事業の外部講師を招聘し、これからの時代で生きる力についての講義を受けた。 英語で日本文化や学校についてのビデオを制作し、姉妹都市ウッデバラ市へ紹介することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を利用し、主体性、コミュニケーション力などを醸成し、これからの時代を生きる力を身に付けさせていきたい。 次年度も海外修学旅行は実施しないことが決まった。国内で国際情勢に目を向けさせるためのより効果的な方策を見つけることが課題である。
	情報処理	<ul style="list-style-type: none"> 授業連携と授業改善を実施し、情報社会に対応できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 教科、科目に関わらず、いずれの科目においても意欲的に授業に臨ませる。 各科目における目標を明確にし、その目標に沿った授業を展開する。 情報に関する知識・技術・モラルを身 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の授業に関しては科目間で連携を取りながら、学習内容が重ならないように進められていた 3年生の授業ではタブレットの活用がうまくできていると思われる。生徒も常にタブレッ 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様に授業担当者同士で連携をはかりながら、授業展開を考える タブレットをどのようにしたらさらに活用できるかを研究する 生徒の習熟度で資格取得の指導を分けていくとともに、基礎的な資格取得ができるように指導する

		に付けさせるため、各科目で連携して授業を実施する。 ・タブレットを効果的に活用する。	トを持って動いている状況が作られていた ・高度資格取得が難しくなっている	・教科書や問題集の内容だけではなく、そこに付随する現状の事柄について話し、変化の激しい情報社会について知識・技術・モラルを深めていく
総合 ビジネス	授業の充実と改善、モラルを持って地域社会に貢献できる人材の育成	・個別学習とグループ学習を適切にバランスよく取り入れ、生徒主体の授業展開を増やす。 ・地域の人や企業と関わる実践学習を充実させる。	・調べ学習やグループ発表など生徒主体の授業を積極的に行うことができた。 ・外部講師を招いたり、企業に赴くなど、地域の人や社会と関わり合いながら学習する機会を設けることができた。ただし、地域社会へ貢献しようという意識の育成はもう一歩であった。 ・資格取得が目標の一つとなっている科目についてはグループ学習や実践的な授業が十分に行えなかった。	・単に地域の人や企業と関わるだけでなく、地域社会の現状や課題などを学び、よりよい地域社会にするために必要なことは何かなどを考えさせる機会を設けることで、地域貢献の意識を養っていききたい。 ・資格取得に必要な知識も、タブレットを積極的に活用し、生徒自身に事例を調べさせたり、話し合ったりする場面をできる限り設け、主体的に学ばせることで、より深い知識の習得を図りたい。
情報会計	授業改善と即戦力となる人材育成	・基礎から専門分野まで幅広い知識の習得ができるような授業展開をする。 ・即戦力となる技術の習得を心がけた授業展開をする。 ・タブレットの授業活用をする。	・教科担当者が連携をとり、習熟度別に理解できる丁寧な授業展開をした。 ・反復練習をすることにより基礎知識の定着および応用的活用能力を身に付けさせた。 ・コミュニケーション能力と即戦力の向上を図った。 ・タブレットによる課題提出・解説等、授業展開に積極的に取り組んだ。	・タブレットを使用し、教材のファイル共有によって各講座の連携をとりながら授業展開に活かしていきたい。 ・教材の共有、生徒への学習意欲向上をさらに促していく。 ・社会で活用できる、コミュニケーション能力、実践能力を培っていく。
学校関係者 評価を実施 する主な 評価項目	<p>上記の重点目標を分掌・学年別に年間計画の中で位置づけ、教職員が組織的に実践しているか、また、以下の学校目標を各担当者の目標の中にどのように取り組み成果を上げられたか。</p> <p>①授業規律により学習習慣を定着させ、授業改善やタブレット活用により学習意欲の向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡商ステップアップアンケート結果から、授業改善が図られているか ・年間2回の授業参観週間を効果的に利用し、教科会などで研究をしているか ・学習意欲を高めるよう一人一台タブレットの授業等での活用方法を工夫しているか <p>②SNSの利用に関するモラルの向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSに関する情報発信がされたか ・情報モラルに関して生徒が主体的に考えることができたか <p>③学校行事・部活動において生徒を主体的に参加させ成長を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において、その意義や趣旨を明確にし、生徒が主体的に参加できたか ・部活動において、人格形成を重視した指導や指導の際の言動に留意し、効果的に休養日を設定することで、質の高い練習を行えたか <p>④「進路指導だより」等を利用して的確な進路情報を提供し、家庭と学校の情報共有を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭に対して進路情報が提供され、共有されたことにより進路指導の充実が図られたか <p>⑤あらゆる機会を捉えキャリア教育を推進させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に開かれた学校として、地域連携や高大連携、販売実習など積極的に取り組んだか <p>⑥学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、「いじめを絶対になくす」意識を職員全体で共有する</p> <p>⑦衛生委員会を活用し、勤務時間の適正な管理と教職員の健康障害防止に努める</p>			